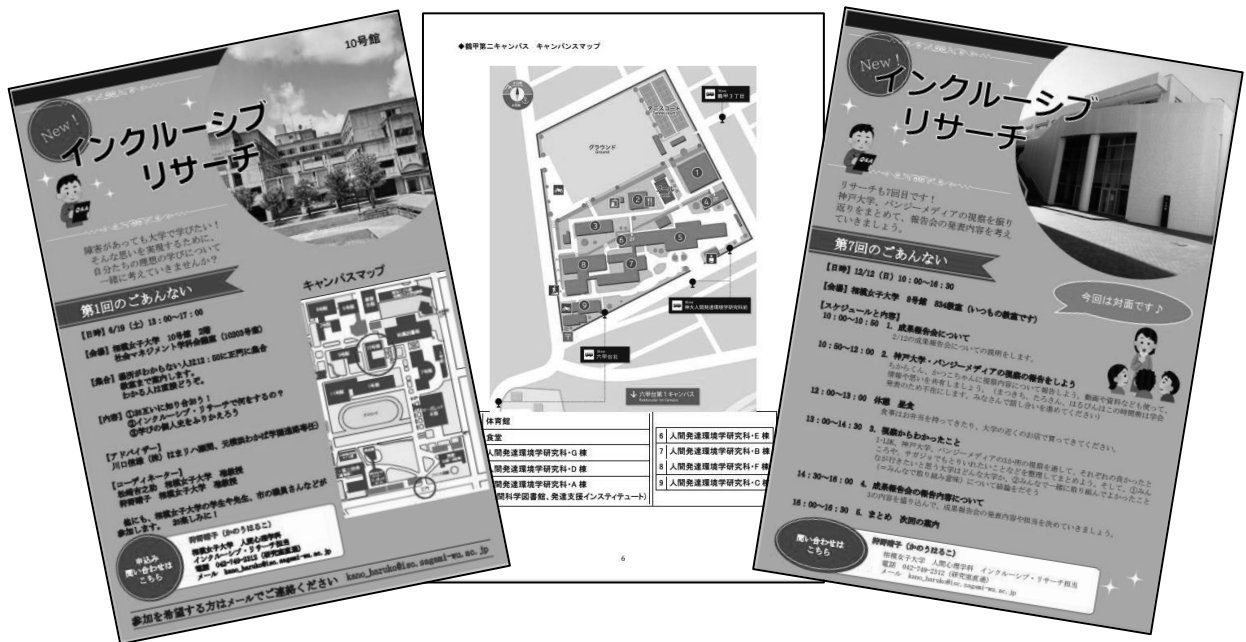


# インクルーシブ・リサーチ

<メンバーに配布された案内>



# インクルーシブ・リサーチ

## 解説

発達障害や知的障害の若者が、自らの生活を豊かにするための課題と感じている事柄を毎年ひとつ、テーマとして取り上げ、障害当事者、学生、大学教員等が協働して調査研究を行い、その結果をインクルーシブ・セミナーやインクルーシブ・ゼミにフィードバックするとともに、社会に向けて発信する。令和3年度は、参加者はプログラム開発のボランティアとして「発達障害や知的障害の若者が大学に求めるニーズの探求」をテーマとし、神戸大学や NPO 法人障がい児・者の学びを保障する会（過去に文部科学省委託事業を受託した団体）、社会福祉法人創思苑バンジューメディア（大阪府にある知的障害者のインターネット放送に取り組む事業所）の見学や視察先講師による講義等を体験した。そして、これらの体験を通じてチームで意見をまとめ成果報告会等の場で発表し、独自の報告書等の制作を行った。

## スケジュール

第1回	6/19(土) 13:00~17:00	ミーティング	自己紹介、プログラムの説明など
第2回	7/24(土) 10:00~15:00	ミーティング	生涯学習・視察先についての情報提供、 視察記録用動画作成のための専門指導
第3回	8/22(日) 12:00~17:00	視察	NPO法人障がい児・者の学びを保障する会(i-LDK)の見学、交流、ふり返り
第4回	9/5(日) 10:00~12:30	ミーティング	お互いに知り合おう 第3回までを終えた感想、今後の活動に向けたグループワーク
第5回	10/9(土) 9:00~16:00	ミーティング 中間報告	これまでの調査(視察・話し合い)を通して考えたことのまとめ、 関係者への中間報告
第6回	11/9(火)から 11(木)※行程は別紙	視察	神戸大学、バンジューメディアの見学、交流。視察のふり返り
第7回	12/12(日) 9:00~16:00	ミーティング	神戸大学・バンジューメディアの視察の報告 視察からわかったこと、成果報告会の報告内容の検討
第8回	1/8(土) 9:00~16:00	ミーティング	成果報告会に向けた発表準備、リハーサル(1)
第9回	2/5(土) 13:00~17:00	ミーティング	成果報告会に向けた発表準備、リハーサル(2)
	2/12(土) 10:00~	報告会	午前:「インクルーシブ・セミナー第4回」にて成果発表 午後:「インクルーシブ・プログラム成果報告会」にて報告

## スタッフ体制

- 企画・運営： 相模女子大学人間社会学部人間心理学科 狩野晴子  
相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科 松崎吉之助
- メンバー： 勤労青年4名、狩野ゼミ生4名
- 協力： 相模原市発達障害支援センター 小林太郎

## プログラムの成果

受け身となる事例視察に留めず、本プログラムの目的や成果等を積極的に情報発信するなど相互に交流し合う実践的な学びの機会となった。毎回の活動を通じたメンバーの感想は回を重ねるごとに変化がみられた。以下に、第1回から第8回までの活動概要とメンバーの感想を報告する。

インクルーシブ・リサーチ第1回 配付資料  
「インクルーシブ・リサーチでなにをするの？」

### インクルーシブ・リサーチ

- 調査の対象であった当事者を、調査の主体に
- 当事者とともに、当事者の問題意識に基づき調査研究を行う手法

~のために → ~とともに

### 今回とrikむテーマ

知的障害や発達障害の若者が  
大学に求めるニーズ  
↓  
障害のある人が  
学びたくなる大学って  
どんな大学？

### 当事者って誰だろう？

市役所 ↓ 大学 ↓

### どんな思いを抱えているんだろう？

大学に行きたかったな...  
もっと〇〇を勉強してみたいな...  
キャンパスライフ、経験したいな  
もう勉強はこりごり！  
大学に行ったら、彼氏彼女ができてたかな？

そうだったんだ！

### どんな思いを抱えているんだろう？

誰でも大学に行けると思ってた！  
障害があるから行けないっておかしい？  
大学は楽しいこともあるけど、課題が多くて大変。  
いろんな助けが必要そうだけど、  
声かけていいのかな？おせっかいかな？

そうだったんだ！

### チームになる

- 話し合いながら、お互いが問題だと思っていることを理解しよう

問題意識の共有

問題意識の共有

# インクルーシブ・リサーチ第1回 配付資料 「インクルーシブ・リサーチでなにをするの？」

## すすめかた

- いい例をたくさん見て、自分たちにとって理想の大学のイメージをふくらめよう
- どんな大学でどんなふうに学びたいかをまとめて発表しよう

1 問題意識の共有 → 2 フィールドワーク(見学・調査)と話し合い → 3 成果の報告

## すすめかたのルール

- みんなでつくる会にしましょう。
- たくさん話してください。でも、自分だけ話すのではなく他の人の話も聞きましょう。
- 話したくないことは、話す必要はありません。
- わからない時や質問のある時は教えてください。
- 疲れて休みたい時もありますね。無理しないで休憩しましょう。
- 会が終わったら、感想を書いてメールで送ってください。
- 私たちは、同じ目的に向かって進む仲間です。
- おたがいを尊重しながら一緒にやってみましょう。

## 視察先の紹介: 8月 i-LDK

※感染症拡大のため、教員2名が現地を視察し、オンライン配信によりメンバーの視察や文書を送った。

□ NPO法人障がい児・者の学びを保障する会  
6月のi-LDKスケジュール

月	火	水	木	金	土	日
1	10:30-13:00 にんじん おしゃべり部	10:30-13:00 元気ちゃんの ソーラー塾	17:30-20:00 おしゃべり部	17:30-20:00 おしゃべり部	11:00-12:00 卒業生 12:00-13:00 ももちゃん 13:00-15:00 風まの作業のミュージアム	11:00-12:00 卒業生 12:00-13:00 ももちゃん 13:00-15:00 風まの作業のミュージアム
8	こん ちゃんの 美術部	こん ちゃんの 美術部	こん ちゃんの 美術部	こん ちゃんの 美術部	こん ちゃんの 美術部	こん ちゃんの 美術部
15	おたのしみ タイム	おたのしみ タイム	おたのしみ タイム	おたのしみ タイム	おたのしみ タイム	おたのしみ タイム
22	なつ ちゃんの ダンス部	なつ ちゃんの ダンス部	なつ ちゃんの ダンス部	なつ ちゃんの ダンス部	なつ ちゃんの ダンス部	なつ ちゃんの ダンス部
29	なつ ちゃんの ダンス部	なつ ちゃんの ダンス部	なつ ちゃんの ダンス部	なつ ちゃんの ダンス部	なつ ちゃんの ダンス部	なつ ちゃんの ダンス部

## 視察先の紹介: 11月 神戸大学

□ 学ぶ楽しみ発見プログラム

## 視察先の紹介: パンジーメディア

知的障害者が発信する  
日本で初めての  
インターネット放送!

「あーいっはっひい」と叫びたい〜  
新聞〜」

特別企画「知的障害を持つ人が  
ふつぷに生きる社会とは」

希望のつばき (第4回)  
パンジーの編「相談事件のさい  
ばんから見てきたもの」

## 視察先をまとめると...

- 神戸大学: 大阪
  - 2019年から知的障害者を受け入れた講座を実施
- i-LDK: 練馬
  - NPO法人が運営する放課後の学びの場
  - 知的障害者幡ヶ谷教室GAYA(ガヤ): 幡ヶ谷
    - 感染症拡大のため視察中止
    - 渋谷区教育委員会が運営する生涯学習支援
- パンジーメディア: 大阪
  - 障害者によるインターネット放送局

月	火	水	木	金	土	日
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						

授業 (木曜)

余暇 (日曜)

放課後・部活 (土曜)

# 第1回：活動概要と参加メンバーの感想（インクルーシブ・リサーチ）

## 活動概要

開催日 2021年6月19日（土）13：00～17：00

会場 相模女子大学 834 教室

1. ようこそ！
  - ・あいさつ
  - ・インクルーシブプログラムの目標や内容などの説明
2. お互いに知り合おう
  - ・自己紹介とゲーム

《休憩》

3. インクルーシブ・リサーチで何をするの？
  - ・目的と内容
  - ・今後のスケジュール
  - ・見学先について
4. 学びについて語ろう～今までの学び、これからの学び～
  - ・話し合い

## 参加メンバーの感想

●障害を持った勤労青年と大学生が合同で行う目的を知ることができました。これから大学生の方と一緒に楽しく学んでいけたらと思いました。これから学びたいことを共有する際に、みんな1人1人違う考えを持っていました。他の人の考えの中で自分にも当てはまる物（1人暮らしや資格など）があって、それぞれの考えを聞くことができ、良かったです。インクルーシブ・リサーチ中はニックネームで呼び合うので普通に名前と呼ぶより仲良く楽しく MTG や話ができると感じました。今までは自分は高校を卒業して働いているので、大学とは無関係なんだなと思っていました。しかし、このような機会を設けていただいて、嬉しく思ったのと同時に、大学で楽しく学んでいきたいと思いました。

●インクルーシブ・リサーチありがとうございました。学ぶについて皆さんとお話、共有して自分が今、学んで見たいことに対して同じ事だったり自分にはないことだったり「こんなことをやってみよう」とか発見がありました！次回もよろしくおねがいします。ありがとうございました。

●今年度初めてのインクルーシブの活動に参加しましたが、昨日までは今年度の内容が分からなかったため、先が見通しが持てなくて不安でしたが、狩野先生をはじめ、皆様が優しい表情で私の発表を聞いてくださったので、だいぶ緊張がほぐれました。勤労学生のこれから学んでいきたいことを聞き、私と同じ社会人でも凄いことを考えている方はいるんだなと思いました（「自分自身について知りたい。」とか「宇宙人」とか）。さがじょ生の学んでいきたいことを聞いてみて、

大学生っていろいろな経験が出来るから羨ましいなと思いました。私と同じ、音楽関係のことを書いていらっしまった方もいたので凄く嬉しかったです。

●今日は久々のインクルーシブの面々との再会！・・・と思ったらアレ？女子大生が変わっている！？ふと思い出したら「そういえば卒業したんだっけ・・・」と今更思い出す自分でした。本題に入りますが、手始めに自己紹介。そして去年やった質問カードゲーム。久しぶりにやると楽しいものなんですねえ。そして目的と内容のプレゼン。その後話し合い。特に「これから学び」では、自分が考えた学びが「私は誰だ」「宇宙人」「サイボーグ」など、SF 作品に出そうな近未来モノのことを書いたんですが、これらの評価が「素晴らしい」という。・・・これ普通ありえないことなんです。それなりに楽しかった第1回目でしたが、次回も楽しみにしています！

●同じ参加者の「学びたいこと」を聞き、自分とは全く違う発想をしていて、一人ひとりの個性を強く感じ、1回目ながらどういう人なのかを深く知ることができました。また、大学での「学び」について、私自身の大学生活での学びも見直そうと思いました。

●最初は何をやるのかわからず緊張しましたが、とても内容の濃いものになったと思いました。何について学びたいか付箋で書いて発表しましたが、人生のほとんど学校で学んできて学びたいことがたくさんあるんだなと思いました。また、ほかの人の発表を聞き、学びたいと思っていたけど思いつかなかったことがたくさんありました。

●最初はとても緊張していましたが、話しやすい雰囲気でも学び様々な話を聞くことができ面白かったです。今回のミーティングでは各々の学びたいことの違いや、互いに教え合うことも学びに含まれることを改めて理解しました。また次回以降もっと話をしたいとっていて、休憩の場等を活かしてメンバーの方と積極的にコミュニケーションをとっていきたいと思っています。次回のミーティングでは生涯学習支援についてや視察準備の理解と合わせて、障害があることによる生きにくさについての話も伺いたいと思いました。

●障害の有無関係無しに同じように不安に感じることもあること私たちの世代の学んだこと、学びたいことをみんなで共有出来たことがとても嬉しかったです。皆んなそれぞれに学校で学んだことの違いがとても興味深く、職に就くための授業なのか、大学に進むための学問的なことなのか全然違うため、もっと詳しく今までの学びについて知りたいと感じました。今回は緊張して色んな方にお話を聞くことが出来なかったため、自分から話しかけられるようにしていきたいです。

## 第 2 回 :活動概要と参加メンバーの感想 (インクルーシブ・リサーチ)

### 活動概要

開催日 7/24 (土) 10:00~15:00

会場 相模女子大学 8号館 3階 834 教室

#### 【内容】

- ① 大学で学ぼう～相模女子大・インクルーシブゼミ～  
～神戸大学・学ぶ楽しみ発見プログラム～ (講師:ゴリさんこと川口信雄さん)
  
- ② 視察の準備をしよう
  
- ③ インタビューに挑戦してみよう! (講師:西澤道子さん)

### 参加メンバーの感想

●西澤さんからインタビューのコツや大事なことを教えていただきました。その後、大学生とペアになり、インタビュー練習をしました。インタビューはコミュニケーション力や言葉のキャッチボールが大切だとわかり、勉強になりました。ですが、いざ実践すると頭の中が真っ白になり、聞きたいことと関係ないことを聞いてしまいました。このことからインタビューの難しさを感じる良いきっかけとなりました。私は I-LDK を担当することになりましたが、視察まで残り 1 ヶ月ないので時間がありません。ペアのちはやちゃんとまとめていってより良いインタビューができるように頑張りたいと思いました。

前は緊張していたこともあり、大学生と全く話すことができませんでした。しかし、インタビューを通して会話をする良いきっかけとなりました。徐々に心を開いて話ができるようになったと思うので、嬉しく思いました。

●最初はインタビューがどんなものかもわからなくて不安がたくさんありましたが、西澤様が適切なインタビューの説明やお芝居を見せてくださったおかげで、少しずつインタビューについて学ぶことが出来ました。相手に声を掛けるタイミングが難しかったので、自分の担当する「パンジーメディア」さんの取材の時までに、そのスキルを磨いていきたいと思います。また、私はコミュニケーションが苦手なので、相手との言葉のキャッチボールの練習を少しずつ、克服出来るように頑張ります。次回もよろしく願いいたします。本日もありがとうございました。

●本日のインクルシブリサーチは、前回よりもお互いにインタビューだったり、視察について、いろいろお話ができたなと感じました。次回は初の視察になるので緊張しますが、今日みたいに楽しく程よい緊張感で、行えたらと思います。

●今日は 2 回目のインクルーシブリサーチ。今回は神戸大学、i-LDK などのインタビューについて。答える側はなんとかなるレベルだが、(今回は仕方ないとして)いきなりぶっつけ本番でインタビューで質問を言うのはさすがにキツイです。…ふと思えば、『職場見学の「会社について

ての質問』のような感じだったかもしれない？とりあえず、まだまだ時間がたっぷりあるので、その日までじっくり考えましょう！今日は楽しかったというより、考えすぎて疲れました。次回は東京にある練馬に行くことに。あの例の宣言さえなければね…。

●今日はゴリ先生のお話とインタビューについての方法などを学べてとても充実した時間でした。2回目ということもあり、勤労青年とも沢山話せてよかったです。青年たちとは帰りお互いに話しながら帰ることが出来たり、お昼ご飯を一緒に食べることが出来ました。少しずつですがコミュニケーションが取れるようになってきて、お話の仕方も身につけられればいいと思います。インタビューは私とこんちゃんが1番手になったので、無理ない程度に2人で打ち合わせをしながら当日を迎えられるように頑張りたいです。本日もありがとうございました。

●第1回では緊張しててお互い話すことができなかったのですが、第2回ではインタビューを通してお話することが出来ました。帰りも一緒に帰ったので沢山お話ができたと思います。授業で質問して1つの質問に対して答えが返ってきて終わりということは普段からしていますが、インタビューのような帰ってきた答えから臨機応変に質問して深堀していくことは行ってこなかったため、大変難しかったです。私は、パンジーメディアの担当になったのでパンジーメディアについて詳しく調べ、疑問に思うことや聞きたいことをまとめていきたいと思います。

●まず、第一回の時よりもたくさんお話しすることができてとても楽しかったです。また昨日作成した模造紙にまとめたものも皆さんに褒めていただけて嬉しかったですし、昨日話し合う中で苦労した点を主に評価してもらえたので昨日頑張ってたよかったです。また後半のインタビューの練習で、講師の方々の寸劇を見ているときには「私ならこのような言い方をして話を聞くかもしれない」というように客観的に見ることでできていたのですが、いざ自分がインタビューしてみると吃ってしまったり何を言ったら良いのか頭が真っ白になったので、きちんと準備しておく必要があると思いました。次回以降はゼミの内容に関わるお話だけでなく、世間話も休憩の時間や駅へ向かう時間を使って話をしたいと思います。また次回は視察日なのでたくさんの方と関わりたくさんお話を伺いたいと思っております。次回もよろしく願いいたします。



## 第3回 :活動概要と参加メンバーの感想 (インクルーシブ・リサーチ)

### 活動概要

開催日 2021年8月22日(日) 12:00~13:00、14:00~17:30

会場 オンライン、More Time 練馬 (一部)

#### 【視察の目的】

大学以外の場で生涯学習がどのように行われているのかを、体験を通して理解しよう!

#### 【スケジュール】

12:00~13:00 ①I-LDKについて (zoom ミーティング)

13:00~14:00 休憩

14:00~16:00 ②くらしのちぐはぐ研究室 (YouTube ライブ配信)

16:00~17:00 ③ミーティング (zoom ミーティング)

### 参加メンバーの感想

●インタビューをしてみてI-LDKについて知らないことが多かったのですが質問したい内容を工夫してわかりやすく伝えられて良かったです。『話す=解決』ではなく、『話す=情報共有』を大切にいて、ちぐはぐ研究室でも楽しく活動している雰囲気が伝わり、こっちまで楽しめました。障害者と健常者の違いは何か?と質問した際に『障害者と健常者の違いを答えることはできない。1人1人違う上でみんなと活動することに意味があるし、それをどう伝えるかが大事じゃないかな?』と聞いた際に自分の中にあったモヤモヤがとれたような感じがし、質問して良かったと思いました。

●インタビューで、「障がい者のことを周りの人に理解して貰えるにはどうしたら良いのか。」という質問の答えで『障がい者』という言葉にコントロールされない方が良い、「経験を積んでいろんな人と関わった方が良い」という言葉を聞いて、少しずつ自分に自信が持ててきたような気がします。今は、コロナ禍で人と関わる機会が減ってしまいましたが、今後とも様々な方との交流は続けていきたいと思います。

●iLDKについてお話を聞かせてもらい見て思ったのは利用者もスタッフをすごく楽しそにお話や意見をしていたなと思いました。雰囲気が放課後デイサービスをみたいでした。そして年金については自分もこれからですが、いろいろ手続きをするのにとっても大変だと感じました。今日の話聞いてもまだぜんぜんよくわかりません…。でもこれからのことで大切なので頑張りたいと思います。本日はありがとうございました。

●途中からの参加で何も分からないことだらけですが、今回のテーマが「障害者年金」についてだったので、「あー、それならもう知っているやつだ」と思い浮かびました。障害者にとってはあ

りがたいことですが、頭の良い人だともらえないというデメリットがある。…これで合っているかどうかですが。

●一つ一つの体験がとても参考になりました。分類についてのお話はとても心に刺さり、自分の中での課題点となりました。私たちが手助できる方法はその人と関わらなければわからないというのが今回のお話でしたが、関わる場やそのようなさらけ出した話をできることが少ないので中々難しいなと感じました。ちぐはぐ研究室ではゆったりと始まって着実に核心に迫っていかうとする話し合い方がとても興味深かったです。みんながそれぞれに信頼をおいているからこそ話せる環境はとても重要だなと感じました。

●今回実際の活動内容を知る機会となりとても新鮮な気持ちになりました。明るくゆったりとしていても話している内容は社会に訴えかけるような内容で、今の社会がいかに「健常者」「障害者」と位置付けている改めて痛感しました。私たちの以前の行動を振り返っても無意識にやっちゃってしまっていたかもしれないと感じることもあったので、これから様々な方々と関わっていく中でより「一人の人間として受容する」ことについて考えていきたいと思います。本日はありがとうございました。

●今回の視察は、オンライン上で行われることとなったが、「障害だから～」という言葉もなく、みんなで考えるということを重きに入れていることが重要だとわかった。

●本当は実際に訪問して参加したかったのですが、動画でも楽しそうな様子が伝わってきたのでよかったです。ちぐはぐ研究室では、みんなが話しやすい空気になるように、時間にルーズだったり、お菓子を食ったり、みんなと話すことが目的というところが特に印象的でした。私も聞きたいことを引き出せるように質問をがんばろうと思いました。

## 第4回：活動概要と参加メンバーの感想（インクルーシブ・リサーチ）

### 活動概要

開催日 9/5（日）10：00～12：30

会場 ZOOM ミーティングルーム

#### 【スケジュールと内容】

10：00～11：10 1.お互いに知り合おう

グループワーク（40分） 自己紹介、趣味や特技自慢など

全体（20分） グループワークの報告（他己紹介）

11：10～11：20 休憩

11：20～12：20 2.インクルーシブ・リサーチについて

グループワーク（30分）①3回目まで終えた感想、

②みんなで話したいこと（①の中から一つ選んで決める）

全体（30分） グループワークの報告、話したいことについて

12：20～12：30 次回の視察について

#### 【宿題、当日までの準備】

①ミーティング中に食べられる好きなお菓子と飲み物を用意してください。ミーティングで紹介してもらいますよ。

②自己紹介について考えておいてください。自分の趣味、特技などは、写真や実物を見せても実演してもOKです！紹介できるように準備しておいてくださいね。パーソナルポートフォリオを使った自己紹介も大歓迎です！

### 参加メンバーの感想

●第1回目以上にグループに分かれてですが、お互いの好きな事についてだったり、これまでの振り返りの感想について沢山お話ができました！今のこのコロナ禍でなかなか話せない中、こういう時間を作ってくださりとても嬉しい限りです！

●お互いの自己紹介タイムの時にポケモンの好きな所か同じだったり、人気のポケモンが好き（ナエトル、ポッチャマ）と聞いたりしました。共通している所があり、共有できて嬉しく思いました。タイピングを皆さんに披露した際に、ミスタイプが多くなってしまいましたが、自分の力を発揮できて良かったと思えました。タイピング等の準備はしていたものの、時間がかかってしまいました。他の方の自己紹介の時間が短くなってしまったのは反省する所だと思えました。

今後活動の中でしていきたいことを話した際に、普段の学校生活では学べないこと（1人暮らしのこと、お金のことなど）を学べれば良いなと思えました。

お互いの最初の印象の話をした際に、勤労青年をどのように想ったのか聞きました。「どう関わったらいいのか？」「意思疎通はどれくらいできるのか？」など想いを聞くことができました。感想とは話が逸れますが、学校は一般クラスと障害者クラスを分けています。それも有り、お互いの理解が難しいのが現実なんだなと思えました。少しずつ日本全体がお互いの理解ができる社会になっていければ良いなと思えました。

様々な話をして、オンラインでお互いの話の深ぼった話まででき、仲良くなれたということは対面ではさらに勤労青年と大学生との間の距離が縮まるのではないかなと思いました。

●6月からインクルシブ・リサーチを始めてきて、これまで、プログラムに参加されている皆様と好きなものや特技について、お話しすることがあまり出来なくて、雑談やトークをする時間を設けていただければと思っていましたが、本日このような機会に参加でき、すごく嬉しかったです。

普段できないお話や、大学ではどのような活動をするのかなど様々なことが聞けたので本当に楽しい時間でした。まだまだ皆様の好きな事や趣味などを、もっとお聞きしたかったです。2時間はあっという間ですね…。そういう私も、もう少しお話ししたかったことはありますが、またの機会に……。

本日は、プレゼンや感想を発表する前に、話す内容をあらかじめまとめて来たので、前回よりも噛まずに話すことができ、私の気持ちを皆様にお伝え出来たのではないかな？と思っております。

●zoomでも言いましたが今の授業等を zoomで行うとき、入ったら授業がすぐに始まってその授業が終わったら zoom を退出するので、授業の前後で話すようなことが話せない環境にあると感じていました。しかし、今回のインクルーシブゼミの内容は雑談や自分のことを語る時間であったので新鮮な気持ちだったしリフレッシュできました。

またこれから視察等が続くのでそこは気持ちを切り替えて取り組みたいと考えていますが、皆さんと楽しく活動できたらいいなと改めて思いました。本日はありがとうございました。

●改めて自己紹介を行うことで、お互いのことを知ることができたと思います。また、zoomで二つのグループに分かれて話せたので、人数的に話しやすかったと思います。お菓子を用意したのですが、食べてるところが画面上に映り食べるタイミングが分からなかったもので、狩野先生が提案してくださったようにもぐもぐタイムを設けるといいかなと思いました。

●今回のインクルーシブ・リサーチでは、勤労青年の方々やたろうさんのことをさらに知ることができたと同時に、参加していた先生の意外な一面を見ることもできました。また、「生涯学習」とはなんなのかを、このインクルーシブ・リサーチで学ぶことを目的に参加してきましたが、話し合いの中で「障害」に対するイメージや「社会人」としての生活について話題になったという話もあったので、「生涯学習」とはまた別に「障害」についても考えていきたいと思いました。

## 第5回 :活動概要と参加メンバーの感想（インクルーシブ・リサーチ）

### 活動概要

開催日 10/9（土） 9：00～16：30

会場 相模女子大学 8号館 834 教室

#### 【スケジュールと内容】

9：00～12：10 1. これまでの調査（視察・話し合い）を通して考えたこと つぎの二つのことについて、二人一組ではなしあおう ①みんな（あなた）が行きたい大学ってどんな大学 ②一緒にチームでやる中で感じたこと、得たこと（※宿題として、事前に考えてきてもらう）

12：10～13：15 休憩 昼食

13：15～14：30 2. 1のまとめ

14：30～15：30 3. 1についての発表（特別ゲストでゴリさんや他の方が ZOOM で参加します）

15：30～16：30 次回の視察について

### 参加メンバーの感想

●久しぶりの対面での活動で、活動時間以外の空いた時間（昼休憩、帰り道など）でもお話しすることができ、とても嬉しく思いました。

・どんな大学に行きたいか？ ・今までの活動の感想

上記の内容を2人1組になり、お互いにインタビューし、私はわかかなちゃんとやりました。インタビューでは前回の対面での活動でインタビューのアドバイス等を聞きました。聞いた内容を活かすことができました。

○活かされたこと ・会話途切れづらくなった ・質問が次々とお出るようになった

主に相手から聞いた内容を元に質問していきました。次に各グループでインタビューで聞いた内容を全体の内容としてまとめました。まとめる際に皆さん意見を出し合い、早くまとめることができ、良かったと思いました。次に zoom で中間発表をしました。個人の発表では言葉が詰まってしまうこともありましたが、自分の想いを伝えることができました。全体の発表では原稿はありませんでしたが、順番に沿ってどういう経緯でこの内容に決まったのかなども含めて発表することができ、安心しました。次は2泊3日の視察なので、学びながら楽しみたいです！

●5回目のインクルーセミナーはこれまでの振り返りと行きたい大学についていろいろ意見や話し合いができました。zoom とは違って対面はすごく良かったし楽しかったです。自分の意見もそうですがみんなの意見の中で生徒が主体の学校はとてもいいと思えました。次回は参加できませんが12月セミナーを楽しみにしています！本日はありがとうございました

●午前中のインタビューは、7月のミーティングで教わったことをきちんと意識して行うことができたと思います。しかし、インタビューで話すことや質問する内容をうまくまとめることが、出来なかったのが残念でした。

でも、インタビューで聞いた内容の中で学べたこともありました。

①「生徒のみならず、先生方にも意見を言うことができやすい大学を求めている」

②「もっとお互いの気持ちを知るために、自分から思いきって話してみる」

伝えたいことがあっても、黙っているだけでは何も解決しない。たとえ相手に話が伝わりにくくても、自分の気持ちを素直に言うことが一番大切だということがわかりました。

インタビューのまとめは、他の勤労青年やさがじょ生の皆様と協力をして、カテゴリーごとに付箋を並べて、発表の準備を行いました。

発表は、事前に準備が足りなかったため思うように伝えることが出来ませんでした。平日忙しくても、話す内容をまとめる時間を作ることが出来なかったのが今回の反省点なので、次の報告会はあらかじめ準備を進めるように心掛けます。

また、突発的な質問に対しての受け答えが難しいので、今後も自分の課題として取り組んでいきたいと思います。また私は、ぶっつけ本番に弱いことがよくわかりました(笑)。自分のことをリサーチすることが出来ただけ良しとします(←ここだけは自分に甘えます笑笑)

次回は待ちに待った、神戸大学とパンジーメディアの視察！！

インタビュー、できるだけ噛まないように頑張ります！！

●今日の反省点としてはやはり自分の発表の不甲斐なさでした。止まってしまったりして伝えきれない部分も多くもっと自分の想いをしっかりと伝えられたらと悔やむばかりです。ですが、これからもそのような機会はたくさんあると思いますのでしっかり場数を踏み努力していきたいと思います。今回中間発表でみんなの想いを聞かせてもらい、障害関係なしに同じようなことを考えていて同じようにこの問題に対して葛藤しているのかなと思いました。付箋貼りなどもチームワークが出来、いい意味でお互いに気を遣わずに作業ができてとても良い会だったなと思います。勤労青年とはだいぶ喋れるようになりこんちゃんとは帰り際に2人でポケモンの話ができるくらいになりました。こんなに話せるようになるとは思っていなかったのもこれも進歩の一つかなと思います。本日はありがとうございました。

●本日の感想として、まず久しぶりに対面でゼミを行うことができ楽しかったです。インタビューも前回より素直にスムーズに行うことができ、色々な話を聞くことができたのでよかったと感じています。また、集合時やお昼の時間、帰り道の時間等雑談を通してコミュニケーションを取ることができ、より仲が深まったのではないかと感じました。神戸大学等への視察やその後のミーティング、報告会とかなりヘビーな内容が多くありますが皆さんで力を合わせていきたいと思っており、自分自身も成長できるように頑張りたいと思います。本日はありがとうございました。

●インタビューをされる側の立場の時は、「みんなが行きたいと思う大学とは」の質問に対して、自分の考えを言葉のすることが難しかった。ただ、もう一つの「チームで一緒に取り組んできて感じたこと、得たこと」に対する皆の考えにもあったように、自分の思いや考えを伝えやすい雰囲気があることをインタビューをされてみて実感した。一方でインタビューをする側の時は、質問に対する答えをさらに深掘りして尋ねることができたので、今度の神戸大学でのインタビューで活かしていきたいと考えています。また、今回のインタビューを通じて、一人ひとりがどういう思いを抱えているのかを知ることができたので、さらにお互いの距離が縮まったと思います。次回の神戸大学の視察は、私がインタビューを担当するので、まずは神戸大学の取り組みを再び調べてからチカラさんとどのような質問にするか考えていきたいと思います。

## 第 6 回 :活動概要と参加メンバーの感想 (インクルーシブ・リサーチ)

### 活動概要

11/9 (火)	9:10 新横浜駅集合 11:50 新神戸駅到着 13:30 神戸大学 (鶴甲第二キャンパス) 到着、3F の A347 教室へ 14:00~15:00 津田英二先生 (神戸大学) からオリエンテーション 15:10~16:40 大学院の授業に参加 Diversity&inclusion (多様性と包摂、多様性の受容) についての対話 17:00~18:30 KUPI 授業「障害共生教育論」に参加・交流。 相模女子大学、KUPI の取り組みを紹介し、交流をする。 ① 相模女子大の説明 (15 分) ② KUPI の説明 (15 分) ③ 休憩 (10 分) ④質問を考える時間 (15 分) ⑤質疑応答 (30 分) 18:40~19:30 KUPI 学生のふりかえりを見学 19:30~ メンターのふりかえりを見学
11/10 (水)	午前中 メンバーでふり返り 13:30~15:00 津田英二先生にインタビュー 15:00~16:30 KUPI コーディネーター、KUPI 学生 (6 名) との交流 17:00~18:30 KUPI 授業参観「よりよく生きるための科学と文化」 18:40~19:30 KUPI ふりかえりを見学
11/11 (木)	8:15 ホテルの入口集合 10:00~12:00 パンジーメディアの見学、調査 (当事者インタビュー)、 意見交換 12:00~13:00 パンジーメディアと一緒に昼食 13:15 吉田駅にて解散

### 参加メンバーの感想

#### 1. 神戸大学 KUPI

●1 日目、神戸大学に初めて伺い、大学の入り口付近で学生さんたちが図書館で学習している様子を拝見し、「大学の授業ってどんなことをしているのだろうか?」「きっと 思っている以上に難しいのかな?」と思いました。最初のオリエンテーションや、大学院の授業は内容がわからなくて、メモを取るタイミングがわからず、戸惑ってしまったこともありましたが、「大学や大学院の授業はこんなことをするんだ。」という貴重な体験が出来て良かったです。

インクルーシブ・リサーチの発表は、とても緊張しましたが、一緒に発表する皆様のおかげで、思いのほかうまく話すことが出来たと思います。急な質問に答えるのは、まだあまり出来ないもので、今後も課題として取り組んでいきたいです。今回の経験で、以前より少しずつ予想外の質問に答えられるようになってきたと思います。授業終了後は、KUPI 学生さんと、メンター学生さんのふりかえりの様子を見させていただきました。KUPI のふりかえりでは、学生さんが自分の楽しかったこと、感じたこと、アピールしたいことを素直に話していたので、私も KUPI 学生さ

んたちのように、心置きなく話せる練習をしていきたいと思いました。メンターのふりかえりでは、メンターさんが今日あったこと、感じたことをスラスラと話せていたので、円滑に話せる人が羨ましいと感じました。しかし一部のメンターの方が「KUPI 生のこういうことが気になるから…」など自分の言いたいことばかり話していた場面があったので、KUPI 学生さんの良いところなどの話しをしても良かったかな？と思います。

2日目は、津田先生に質問したいことが全く浮かばなかったので、「事前にインタビューを考えてくるのを忘れてしまった！」と内心動揺していました。そこで大学からいただいた「水曜日の授業 ～よりよく生きるための科学と文化～」の日程表を読んだら、様々なテーマの授業があり、内容がインクルーシブ・セミナーに似ていると思ったので、「水曜の授業のテーマはどのように決まるのでしょうか？」と質問をすることが出来たので、ホッとしました。KUPI 学生さんとの交流では、たくさんお話しすることが出来ました。中には手話の検定を持っている方もいらっしやっただので、私自身もとても勉強になりました。手話の4級を取得したいという気持ちを改めて思い、引き続き学習していきたいと思います。一人の方と LINE 交換することが出来たので、今後もお互いの情報交換などをしていきたいです。

神戸大学を視察に行ってみて、自分自身が学習したことは、学生時代は、授業で行ったこと、聞いたことをすぐに吸収することが出来たのですが、社会人になってから仕事中心となり、学ぶ機会が減り、授業の内容を吸収する力が弱くなっている気がしました。やはり社会人になっても学ぶ機会、勉強することは必要だなと感じたので、今後もさがみ女子大学のプロジェクトに参加させていただければと思います。

●神戸大学の取り組みで良かったと感じたことは、当事者（KUPI 学生）と一般学生、メンター学生が関わる機会を週3日設けて積極的に関わる時間を作っていることです。また、授業、振り返りの時には KUPI 学生2～3人に対して一般学生やメンター学生が1人ついており、いつでも質問しやすい環境になっていることです。また、曜日ごとに異なるプログラムがあり、それぞれで積極的に関わる機会を増やす取り組みをしていました。それにより、お互いの相互理解をしようとしていることが伝わったからです。

視察をしてみて臨機応変に対応する場面が多く、とても大変でした。

・津田先生への質問時、聞きたいことはこういう意味かを尋ねられた時

・津田先生が説明の合間に「何か聞きたいことはありますか?」「これについてどう思いますか?」などを聞いてきたことです。津田先生への質問時に自分が伝えたい内容が正しく伝わらなかった時にすぐ説明し直すことができました。それでも正しく伝わらず、うまく丸め込まれたので少し心残りがありました。改めて人に説明する難しさというものを学ぶことができました。

相模は当事者と学生の関わる機会は神戸大学より少ないものの、活動後、話しながら帰宅するなど、横の関係が築けていると改めて思いました。自分達の活動に自信を持ってこれからも参加したいと思いました。

●神戸大学の取り組みでよかったところは、授業後の KUPI 学生の振り返り時間に入っても、振り返りより KUPI 学生からの発表や感想・質問を優先していたところである。その理由は、スケジュール通りに進めることより、一人の KUPI 学生が持つ「発表したい」「発表の感想を聞きたい」という気持ちを優先しているところが一人ひとりに配慮した授業の進め方だと思ったからである。

また、2日目に KUPI 学生と一緒に話す時間のなかで、KUPI 学生が自分の好きなものを細かく教えてくれたり、私の話に興味を持って話しかけてくれたことが嬉しかった。ある KUPI 学生で、



話す内容を聞き取ることが出来なかった時に「本人にすごく申し訳ないことをした」と思っていたが、実際はそこまで相手が傷ついた様子はみられず、紙やスマートフォンにその話した内容を書いてくれた。この経験から、神戸大学での授業としてはメンターや一般学生と「ともに」進める取組だが、私自身の意識のなかでは「ために」という考え方だったのではないかと思い、授業の進め方だけでなく、メンターや一般学生の障害に対する考えも重視されるものだと考えた。

●良かったと感じた点は、KUPI 学生とメンター・学生・教師・コーディネーターの関わる機会が多い点が挙げられる。週に3日会って活動しているため、お互いについての理解が深まっている場面に多く出会った。もちろん人数が多いことによって把握できていない部分も見受けられたが、メンター同士で支え合ったり、KUPI 学生に直接聞いたり対策していた。また大学の講義の内容のようなものを一緒に学ぶことができる機会（水曜日のプログラム）は良いと感じた。障害があるというだけで一般的な学びに参加できないことが現状多くある中で、一般の学生と共に大学の講義に参加できる環境が整備されていることが素晴らしいと感じた。

今回の神戸大学への視察は自分にとってかなり衝撃的で様々なことを学ぶことができたと感じている。特に重度知的障害の方のヘルパーさんからの「今回重度の子を見て関わってみてどう感じますか」という質問は印象的であり、その質問が思い浮かぶことに疑問を感じる。私は綺麗事でもなんでもなく、特に何も感じなかった。しかし、神戸大学の中の雰囲気としてその子を特別扱いして故意に仲間に入れてあげている感が否めなかった。例えば「金曜日の活動に参加してもらって他のみんなと交流してもらっているんですよ」などとおっしゃっていたことなどが挙げられる。全体としてその子の「ために」何かしているという感覚を感じた。また、誘導的な場面も多く障害のある方と「ともに」活動していると表では掲げているが、細かいところを見ると誘導的であったり無意識のうちに上からのサポート体制ができていたと感じる場面が多く見受けられた。様々な活動を実行していて相模女子大学でも実践してみたいと感じる事業はあったが、上からサポートするような関わり方や上下関係の存在に関しては何かを参考にするのではなく、相模女子大学として独自で考えていくべきであると感じた。

●神戸大学の取り組みで良かったところは、長い時間をかけてふりかえりがあるところや何でも話せる雰囲気。ふりかえりをすることによって相手が考えたことや自分の思っていることを整理できることと感じたから。話題に関係ないことでも話し、よい雰囲気だったことが印象的だった。津田英二先生の神戸大学や KUPI についての概要は話が難しいところもあり、理解するのに必死であった。大学院の授業では中国からの留学生や社会人学生の意見を聞き、大学とは何かについて考えた。おかれている状況が違うため違った角度からの意見が面白かった。世界でも大学でも多様性が進んでいることが話題に出たが、相模女子大学が女子学生のみを受け入れていることに疑問を感じ、様々な人を受け入れなければ多様性と言えないのではないかと感じた。KUPI の授業では相模女子大学について発表を行った。予想していたよりも大きな教室で人数が多かったため緊張したがみんな堂々と発表ができていたのではないかと思う。KUPI 学生とは line やインスタグラムを交換し仲を深めることができたのではないかと思う。神戸大学の取り組みを視察し、いいところ、工夫した方がいいところがわかったのでみんなと話し合い、今後の活動に活かしていきたい。

●神戸大学の取り組みで良かったことは、KUPI 学生の振り返りの時間がしっかり設けられていてその日のことを消化できる時間があることだ。理由としてはわからなかったことやもっとやりたかったことをほったらかしにしないようにできるので、その日に解決できると感じたからであ

る。他にはサポートの体制が万全なところだ。理由としては親御さんが安心して活動に参加させられるのではないかと感じたのでそう感じた。

なかなか考えさせられることが多い二日間だった。まとめると“ともに”活動するということを考え直したいと思った。大学で何かを教えるとなるとどうしても上下関係が存在してしまうことはあると思うが、“障害者のために”行われているメンター同士の振り返りの方法が変わればいいなと感じた。大学院の授業に慣れていない中でいろいろな発言をしてしまったのであれで合っていたのか不安なところが多くあるが、貴重な経験となった。そしてこれからとしては対等な立場で学ぶことのできる大学について考えていきたいと感じた。



## 2. パンジーメディア

●パンジーメディアは、スタジオの中がとてもキレイで カメラも何台か設置されていたので本当のテレビスタジオのような感じがしました。パンジーメディアのお話しをしてくださった、小川さんのお話しがとてもわかりやすく、障がいのある人にもいろいろ経験してもらいたいという優しい気持ちが伝わりました。インタビューもはるぽんと協力をして、無事に成功することが出来たのでホッとしました。また、あらかじめ用意してきた質問をそのまま読むのではなく、何か内容を一言付け足して、質問することも出来ました。それは、神戸大学のインタビューの際に、こんちゃんが事前に用意した質問内容では伝わらないと判断し、自分の言葉で再度質問をした姿を見て、私も実践してみました。これからも場数を踏んで、自分のスキルを向上していきたいです。パンジーメディアは、とても優しい人ばかりで、アットホームな職場だなと思いました。昼食の時も、最初は自分からパンジーの方に声を掛けることが難しかったです。ゴリさんや太郎さんたちが楽しそうにお話しされているのを見て、私も自分からパンジーの方に話しかけてみたいという気持ちが出てきて、最後は、楽しくコミュニケーションを取ることが出来たので嬉しかったです。

先日、ゴリさんとも「今後、さがみの活動でも、メディア放送をしてみたいですね！」とお話しをしたので、いつかテレビ放送や撮影をする活動もしていきたいと思いました。

また、パンジーのDVDの中で、ナレーションが入っていないのは、障がい者をメインにした作品を作りたいからというのを聞き、本当に障がいを持った人を尊重していると心から感じました。私も軽度の知的を持った人間ですが、他の障がい者の方の気持ちを組み取ることが出来るようになりたいと思います。

●パンジーメディアの取り組みでよかったと感じたことは、知的障害者（特に軽度）の現状が世の中に伝わりにくい状況の中で放送という手段で世の中に発信をしていることです。また、何か放送のテーマを決める時や行う時など、物事を行う時に知的障害者や障害の程度が重いからといってできないからやらないというスタンスではなく、まずは案を出して調べてリサーチし、挑戦していることです。その中からできないもの、できるものに分けて、できそうなものに絞って行っていることです。最初からできないと決めつけずにまずは思いつきでやってみる、そしてダメだったらやめることをしているのを知り、良い取り組みだと思ったからです。

視察をしてみて、それぞれが発言できる環境が作られており皆さん生き生きしていると思いました。そして案を出す所から始まり放送に結びついていることを知ることができました。パンジーメディアへの質問の中で1つ、「世間は障害者と聞くと自分たちよりも下に見たり、本来できることなのに何でもサポートする人がいるかと思います。どうしたら何ができて、何ができないか周りの人に理解してもらえますか？」という質問をしました。

その回答が「一般の方々も理解していないことが多いから理解する必要があるけど、当事者側も

- ・できること
- ・できないこと
- ・やりたいこと
- ・支援や手伝ってほしいこと

など、まずは伝えることが大事だと思います。そして当事者と支援者お互いに伝えることが大事だと思います」とおっしゃっていて当事者側が何も伝えずに自分達のことをわかってほしいというの違うなど改めて思いました。

グループホーム入居についての動画を見た時についてです。この動画を見る前に自分で予習を少ししました。それにより、内容がより理解できたかなと思いました。動画を見て制度が変わるこ

とを知りました。

- ・まず入居者を軽度、重度で分ける
- ・軽度は入居して3年が経過すると強制的に退居させられる
- ・グループホーム1件辺りの人口密度の増加

など、国がこのような制度に変えることを知ってグループホーム1件辺りに住む人を増やして生活しづらくさせることで不便さを入居者に感じさせ、嫌でも遅くとも3年以内に強制的に退居させる狙いがあるのではないかとも思いました。

パンジーメディアの説明が終わった後に皆さんと昼ごはんを食べました。そこで様々な話をしながら食事することができて良かったです。話の中でパンジーメディア内に付き合っている方々が2組いらっしやるとお聞きして驚きました。私には今、彼女はいないので羨ましいなと思いつつ、話を聞いたのが印象に残っています。

●パンジーメディアの説明を通して、番組やドラマが当事者視点で制作されていることを知ったが、職員も全てを任せるということはなく、一緒に制作していたりやりたいことを実現しようとしているところが、障害を持っている方と「ともに」活動していると感じた。また、テーマを決める際、職員は「できない」とは言わないこと、断らないことを意識しているというお話がとても印象に残っている。それこそ「できない」と言ったり、断ることはないだろうという思い込みや、差別的な考えが根本にある行為だと思うため、障害を持つ人視点の動画制作だけでなく職員による関わりにも意識を持って取り組んでいると思った。

障害の有無関係なく、私も自分のことを知ってもらいたい、好きなことを伝えたいと思うことが日常生活のなかで何度もあるが、同時に否定されたらどうしようと思うことがあるため、パンジーメディアのような番組制作で世間のいろいろな人に知ってもらうこと自体が魅力的だと思った。

●パンジー・メディアではチーム一体となって一つの番組を作っていることが印象的であり、当事者と職員の区別なく関わっていることが良いと思った。サポートするところはしてそれ以外の自分でできると考えられる部分はサポートしすぎないという場面が多く見ることが出来たと感じる。例えば食事の介助は必要であっても何が食べたいのかななどの意思を汲み取りながら食事をしていたり、番組に関わることは当事者本人たちの意見に寄り添っていることなどが挙げられる。他にも良かったと思う点は、ナレーションがなく当事者の本音が映像として放映されている点である。当事者以外の価値観が混入することなく一つの作品が出来上がっているとお話を聞いて分かり、当事者の本音を伝えることを重要視していることが分かった。番組に出ようと思ったきっかけは各々で異なるがそれぞれの思いを個人的に受け止めて見守っていく体制が整っている点が良いと感じた。

また実際に距離が近く圧倒されてしまったこともあり、そのような状況でどのような声かけをするべきであったのかが今後の私の課題であると感じた。あの雰囲気の中で否定的な言葉を言うことは私にはできなかった。嫌なことは嫌と伝えることが重要であるのは分かるが、そのことを伝えたことによる信頼関係の崩れが怖く、何も言えずただ流されてしまった。関西のノリであるのかもしれないが冗談かそうでないのかの判断も難しかった。

以前まではコミュニケーションがなかなか取りにくい方々に対しての関わり方ばかりに悩みが多くあると感じていたが、コミュニケーションが取りやすく、なおかつ距離が近すぎる方々に対しての関わり方についても考えていきたいと思うきっかけの視察となった。

●パンジーメディアの取り組みで良いと思ったところは、ニュースキャスターやプロデューサー、スタジオ編集、カメラマンなど一人ひとり役割があるところ。一人ひとり役割があることで当事者が主体的に活動でき、責任感が生まれると感じたから。また、「きぼうのつばさ」でやりたいことを案に出し、すぐにできないことであつたら諦めるのではなくできるように準備に時間をかけること。最近の私はできないことであるとすぐにあきらめてしまう傾向があるため私に必要なことだと感じた。

パンジーメディアでは当事者の方や職員の方にお話を伺ったが、私は当事者の方と職員の方で丸くなり昼食をとったことが印象的であつた。みんな食事や会話を楽しみながらにぎやかな雰囲気であつた。昼食の中で特に私が注目した点は、当事者と職員さんの間では支援する、されるという対等ではない関係性が応じやすいが、パンジーメディアを視察し、当事者と職員さんの関係性が対等であるということである。これは実際に職員さんが「ヒマラヤ山脈に登ったときは当事者の方も酸欠になって苦しかったが、当事者の方に職員が励まされたことがあつた」「職員が困っていると当事者の方が助けてくれ、お世話を焼きたがる」と言っていたことからでもあるが、実際に私が体験したことでもある。私の隣に座っていた利用者は私より先に食べ終えたが、自分の食器を片付けた後私の隣に座っていた。私は、なぜ座っているのかと思つたが私が食べ終えた後「こっち、片づけを教えてあげるからついてきて」と言い、どこに何を片づけるのか教えてくださり、「あそこにコーヒーがあるから飲んでね」と勧めてくださった。また、何かイベントごとなど活動するとすると障害者のために職員さんが準備するということもある。パンジーメディアでは自分のやりたいことを案として出し、すぐにできないのであれば期間をかけて準備することを行っている。そのことから当事者が主体的に行い一人ひとり役割を持つことで自信と責任感につながり、昼食の時に当事者が私を導いてくれた行動があつたのではないかと感じた。

今後は、パンジーメディアでの視察から障害のある人が学びたくなる大学はどんな大学か考えていきたい。神戸大学を視察し、大学ではサポートする、されるという関係性ができやすいと感じた。アンバランスな関係性が障害者の「ため」の大学になってしまうと考える。パンジーメディアの対等な関係性がなぜできるのか分析し、障害のある人が学びたくなる大学とはどんな大学か考える上で活かしていくことが今後の課題である。

●パンジーメディアの取り組みで良かったところは、やりたいことにノーと言わないところ。時間をかけてでもやろうとしているところや、それに対してスタッフが助けっぱなしになるのではなく、当事者自身が進めているところが良いと感じた。他には、円形でご飯を食べているところ。スタッフと当事者の信頼感が伝わってきた。重度の障害を有する男性とヘルパーさんの息もぴったりで、仲がいいのかお聞きしたところ「心外だなあ」と男性が冗談を言っているとヘルパーさんが教えてくれてそれを聞いて男性が笑っているのが普段の関係性そのものだなと感じた。とても和やかで対等な雰囲気の活動をされている場所だなと感じた。放送をやる理由もそれぞれ違い、人と人としてもわかりあうことが難しい中で、その企画の企画者の価値観をありのままに伝えることはもっと難しいことであると思う。それをやり遂げ、スタッフ当事者関係なくみんながそれぞれにやりたいことを追っている印象を受けた。それぞれにやりたいことを追いかけているからこそ対等という関係が築きあげられていくのではないだろうかと感じた。

## 第7回 :活動概要と参加メンバーの感想 (インクルーシブ・リサーチ)

### 活動概要

開催日 12/12 (日) 10:00~16:30

会場 相模女子大学 8号館 834 教室 (いつもの教室です)

#### 【スケジュールと内容】

10:00~10:50 1. 成果報告会について

2/12の成果報告会についての説明をします。

10:50~12:00 2. 神戸大学・パンジーメディアの視察の報告をしよう

ちからくん、かつこちゃんに視察内容について報告しよう。動画や資料なども使って、情報や思いを共有しましょう。(まつきち、たろさん、はるぴんはこの時間帯は学会発表のため不在にします。みなさんで話し合いを進めてください)

12:00~13:00 休憩 昼食

13:00~14:30 3. 視察からわかったこと

I-LDK、神戸大学、パンジーメディアの3か所の視察を通して、それぞれの良かったところや、サガジョでもとりいれたいことなどを整理してまとめよう。そして、①みんなが行きたいと思う大学はどんな大学か、②みんなで一緒に取り組んでよかったこと(=みんなで取り組む意味)について結論をだそう

14:30~16:00 4. 成果報告会の報告内容について

3の内容を盛り込んで、成果報告会の発表内容や担当を決めていきましょう。

16:00~16:30 5. まとめ 次回の案内

### 参加メンバーの感想

●久しぶりにメンバーと会って嬉しかったです！神戸大学の視察のお話を聞いてこういう活動をしてるんだなと知ることができ、その後、自分の思ったことについても感想が伝えられました。iLDKからも含めてやってることは違うけど、どこも障害者が主体で活動してること、障害がある関係なしで活動ができる場所がもっと増えてくれたらと思いました。次回もよろしくお祈りします。本日はありがとうございました！

●まず最初に親睦を深めることとしてサイコロゲームをしてお題のテーマに沿って話しました。前回も行いましたが、ゲームをすることでお互いの理解や共有ができたと思います。その後、視察で学んだことを皆さんで意見を出し合い、模造紙に付箋で書いたことをまとめていきました。思いつくことがたくさんあり、模造紙が付箋だらけになってしまいましたが、その後に楽しい雰囲気話し合いながらまとめることができたと思います。さらに大卒のテーマを決める時に「完走予定の者達」という意見が出た時はみんな大笑いし、場がすごく明るい雰囲気になったこともありました。リサーチ活動を重ねるごとにゆったりと楽しい雰囲気のまま物事を進めることができているように思い、皆さんとの距離がさらに縮まったように思いました。取り入れたいこととして、ふり返りの時間を最後に設けるということが印象に残り、それを取り入れられることができればいいなと思いました。

最後にインタビューを受けて、途中言葉が詰まってしまったこともありました。自分が想っていることを広報の方にお伝えすることができたと思います。小中学生の時に一般学級の人から障害を理由にいじめを受けていて、傷つくことがありましたし、「普通」とは何だろう？とも思うよ

うになりました。「普通」という定義を誰か決めたわけでもないのに障害だから、またその他にもあると思いますが、それらを理由にいじめ、差別を受ける現実を少しでも変えたいと思いました。その為に勤労青年と学生が関わって活動するインクルーシブ・リサーチの活動を他の大学でも行うことができれば少しでもいじめや差別が少なくなり、障害に対する理解が深まると思いました。

●午前中は、視察先の振り返りを行いました。みんなの感想が書いてある冊子を見ながら、自分はどんなことを記入したのかを確認し、良かったことや取り入れたいことを発表しました。原稿通りに読むのではなく、内容を少し付け足しながら話すことができたので良かったです。8月や11月に記入したことと、経験を積むことによって、思いが変化してきました。

午後の視察先で学んだことのまとめは、感じたことを付箋に書いてみて、また近いうちに皆様と視察に行きたいなという気持ちになりました。今回の視察や観光はとても良い思い出になったので、来年度もこのメンバーで活動していきたいと思う気持ちが強くなってきました！

インタビューでは、緊張して少し囁む場面もありましたが、短時間で質問の内容を考えることも少しですが、できるようになったと思います。

●今日は、久々にインクルーシブ・リサーチに参加ができた。遅刻したけど。まあそれはおいといて、いつの間にか自分や水野君以外の者たちが性格と雰囲気変わっていた。ヒョッコなアイツら(女子大学生とユカイな男二人)が一人前に生まれ変わりやがった！どうやら視察で色々学び、成長したらしい。もうアイツらだけで十分じゃないかな…。俺は引退してもいいくらいだ(冗談半分)！

さて、今回のインクルーシブは視察のまとめと報告会についてだった。自分はまた適当に「あいつがあなたになる(元ネタは『Tomorrow ~Beside You~』の歌詞)」「考えるな、感じろ(ブルース・リー)」「四本の足をもつ馬でさえつまずく(イギリスの格言。日本のことわざでいうと『失敗は成功のもと』)」など…。果たして理解できるだろうか…。うーん。

その後、4人のインタビュー。自分は不参加だけど、とりあえず聞き役。しかも4人とも長いこと言っている上に話の内容が深い…。やっぱりアイツらにまかせて引退しようかな…。(冗談半分)? あんな優秀なアイツらに勝てる気がしない!!

●正直、視察に行った人と行っていない人とで、「一緒に活動していてよかったところ」のテーマを考える時に距離ができてしまっていたように感じたため、次回はメンバー全員で一緒に進めていくような雰囲気を作っていきたいと思った。

また、中間の振り分けの時よりも、積極的に意見を伝えたり自分から動くことが多かったため、みんなと仲が深まった影響の大きさを実感した。仲が深まったからこそ、自分から役に立ちたいと思って動いたり、みんなの意見をもっと聞きたいと思ったため、自分自身も主体的に動くことができたと思う。

●12日の活動は神戸への視察を終えて最初の活動であったこともあり、最初から楽しく活動できたと感じています。しかし神戸へ行った組と行けなかった組での温度差はやはり感じました。なるべくその温度差を埋めていきたいと意気込んで活動に参加しましたが、埋めきれなかったと感じています。これから活動していくにはこの温度差をどうにかしていかなければならないと感じていますが、どうすることが良いのか1日通してわかりませんでした。

また広報のインタビューについては「障害についてどう思いますか」や「共生社会に必要なことは何ですか」などそもそも質問として答えることが難しいものもありましたが、なんとか無事に

終えることができ安心しています。上記の質問等に答えることで改めて自分が何を大事にして活動していきたいのかが見えてきました。それは大きく言うところのような質問がされないような社会を目指すことです。上記の質問をされると言うことはまだ障害や共生社会についての理解が社会の中で成立されていないのかと感じました。私は、共生社会という考えは当たり前であるべきであると感じます。今後の活動を通して少しでも共生社会の考え方が当たり前になるようにするにはどうすべきか考えていきたいと思います。

●今日の午前は、視察の様子や感想をみんなで共有しました。午後は、午前中の話し合いを踏まえてみんながいききたい大学とは何か、一緒に活動してきてよかったことについてまとめました。前の付箋に書かれていたことよりも視察に行ったことでより具体的な意見が出されたと思います。一緒に活動してきてよかったことも、視察で仲が深まり、お互いのことをさらに知れたので一緒に活動してきてよかったことがさらに増えました。広報のインタビューでは4人が堂々と自分の思いをお話されていて感動しました。「支え合っていることは何ですか」という質問に対して、神戸大学の視察で私の書いたメモをこんちゃんに見せたことが助かったと話されてうれしかったです。他にも沢山支え合っている中で、こんちゃんにとって役に立てていたなら良かったなと思います。視察で親睦を深めたからか、敬語をやめたからなのか前回よりもワイワイ、元気よく活動できました。

一つ気になったことがありました。ご飯を買いに行くときにちからくん自身が置いて行かれているようなことを話していました。今日の活動の中でもあまり参加できていないと話していたので視察に行けなかったことで疎外感？みたいなものを感じているのかなと思いました。

●今回は自分たちの行った神戸大学やパンジーメディアについて、行けなかったメンバーに紹介することができました。話し合いやグループワークなどでは前までになかったようなふざけ合いが見られるようになって、本当に仲が良くなったんだなと実感させられる1日でした。話し合いの時など誰に振ってもすぐにみんな意見をはっきり言えるようになっていてそこも成長した点かなと感じました。

2月に行く発表に向けてまだまだ不安は多いですが、自分たちで先に決めておこうとしたり頑張ってくれるメンバーも多いのでみんなに引っ張られながら私も頑張っていこうと思います。

インタビューでは自分が思っていたよりも自分の中でこのメンバーが大切になったことを実感しました。障害があるから何なのだろうか？という気持ちは最近私がこのインクルーシブリサーチやゼミナールを通して強く感じる点です。まだ答えは見えそうにありませんが、世間の心ない偏見に引っ張られないように強く自分の気持ちを持ちたいと感じました。



## 第 8 回 :活動概要と参加メンバーの感想 (インクルーシブ・リサーチ)

### 活動概要

開催日 1/8 (土) 9:00~16:00

会場 午前:相模女子大学 8号館 834教室 午後:相模女子大学 ガーデンホール

#### 【スケジュールと内容】

9:00~10:30 1. 成果報告会の報告内容について:発表内容や役割分担を決めよう

10:40~12:10 2. 発表準備:担当部分について、内容を整理したり、原稿を書いたりしよう

12:10~13:00 休憩 昼食

13:00~14:30 3. ガーデンホール(会場)に移動して、発表のリハーサルをしてみよう

14:30~15:15 4. リハーサルの振り返り:改善点や本番までに準備することを確認しよう。

15:15~16:00 5. まとめ 次回の案、参加メンバーの感想

### 参加メンバーの感想

●新年明けて久しぶりのメンバーに会えてとても嬉しかったです!リハーサルはこれまでの活動の記録を元に、少し書けたので本番に向けて仕上げていき、素晴らしい発表会にします!

●年明けに皆さんと会うことができ、とても嬉しく思いました。

そんな時間も束の間、発表まで残り1ヶ月と迫る中発表内容や分担、原稿を考える時間でバタバタな1日でした。本日中に全て決まらなかった上、リハーサルもできなかった為、発表の前に1度集まることになりました。

正直、1回多く皆さんと集まる機会ができたので嬉しく思いましたが、同時にこの時間で準備を万全にしたいと思いました。発表内容や原稿作りなど、やることがたくさんあるのでIWAニャンと協力して進めていきたいと思いました。

●午前中は、成果報告会についてのレクチャーを聞き、一部どのように発表したら良いのか、どのようなことを話せば良いかわからないままでしたが、皆さんの意見をたくさん聞いて、少しずつ報告会のイメージを掴むことができました。プレゼンもただ堅苦しい話を長々と話すよりは、みんなが興味を持って聞いてくれるのはどうしたら良いかということに改めて考えました。少しくイズやお芝居などを取り入れることにより、参加者が構えることなく聞くことができると思います。私も今まで何度か発表する場面がありましたが、思うように伝えることができず不安なことが多かったですが、これからは過度に緊張せず、気持ちを楽にして明るく発表できるように心掛けていきたいです。

午後は発表の担当ごとに分かれ、発表の文章や構成などを考えていきましたが、今日は決めることがたくさんあったので、時間が足りず原稿はまだ半分も完成していません。〆切日までにパートナーのこんちゃんと協力をして、休みの日にMTGできる日があれば話し合いをし、完成させたいと思います。また私の担当する発表は、お芝居も含まれているので、良いシナリオにしていきたいです。

リサーチ終了後のインタビューは、とても緊張しましたが、前回よりも噛むことはなく、自分の気持ちを率直に話すことができたと思います。相手がどのようなことを求めているのかを、しっかり考えながら話を聞いた結果、スムーズに話せることがわかりましたので、今後も伝える力を磨いていきたいです。

●私として今回のリサーチの中でかなり自分の意見を言うことができたと感じています。最後のまとめの感想でも言いましたが、私の意見を受容してくれる環境の存在が大きく、ありのままの第3の居場所となっていることを本日改めて感じました。正直最初はここまで自分のことを話すことができると思っていなかったのととても嬉しいです。

しかし、遠慮がなくなった分傷つくことも少し増えてきたと感じます。例えば私が頑張って書いた神戸大学での発表の原稿について「こんな簡単でいいなら楽だと思おう」と言われたことや、私が話しているのにその話題や意見を横取りされてしまうような状況などです。あまり気にしないようにしていましたが、仲良くなってきたからこそ気になってしまう部分があります。親しき仲にも礼儀ありだと思うので、自分の意見を言うだけでなく、自分が嫌だと思った感情なども言うことができるように今後していきたいと思います。

また成果報告会については緊張しすぎないように準備をきちんとして、本番は楽しみたいと思っています。自分達がやってきたことを外部の第三者に報告できる機会は多くないと思うので、自分達が考えていることがうまく伝わると良いなと考えています。

●今日の活動は、お正月明けで久しぶりに早起きし学校に行ったため、もう正月気分ではいられないと気が引き締まりました。

報告会の内容はある程度先生方が決めてくださっていましたが、付け足したいことで様々な意見が出てたため学生と勤労青年らしい発表になるのではないかと思います。発表の内容では、劇やロールプレイを行うということなので、どんな発表になるのか楽しみです。参加者も1時間の発表を聞くのは大変だと思うので、劇で少しでもみんなで楽しめたらいいと思います。

テストもあり忙しいですが、忙しいのはみんな同じだと思うので、報告会に向けて協力して準備に取り組みたいと思います。

●短い時間の中で、報告会の内容や役割分担、そして各々作業をするところまで進んだこと事体がすごいことだと思う。それは、メンバー一人ひとりが、主体的に意見を主張したり受け入れてくれるからだと思う。今回のインクルーシブ・リサーチは、次回のリハーサルに向けて、自分のやるべきことを全うしてチームに貢献していきたいと思う活動でもあった。

●1/8のリサーチでは、自分たちの今までやってきたことのまとめということで色んなことを思い出したり、本当にこれでいいのかとでも考えさせられることが多かったです。みんなでひとつのものを最後に作り上げるということで今までよりも難しい課題に直面したのではないかと感じました。私たちがやってきたことをみんなに知ってもらいたい。それをわかりやすく伝えるためには何が最善なのかということについてかなり悩みました。

せっかくの自分たちのやってきたことを知ってもらう機会なので、無駄にしないように私たちがしく全力で出来ればいいなと思っています。

# 2021年度の総括と今後の課題（インクルーシブ・リサーチ）

相模女子大学人間社会学部人間心理学科 狩野 晴子

## 1. 活動の概要

インクルーシブ・リサーチは2021年6月より全くの新規事業としてスタートしたが、活動が始まって多くのメンバーにとって想像しがたい謎の多い活動であっただろう。その理由の一つとして、大学という高等教育機関が提供するプログラムという形態をとりながらも、当事者主体の原則に基づき、障害者自立生活運動やピープルファーストのような当事者活動の手法を用いて運営を行ったということがあげられるだろう。通常であれば、教育の目的、教材、方法等が用意され、それに従って受講者は学習を進めていくが、インクルーシブ・リサーチの活動は、ある程度の枠組みはあるものの、受講者が方法や方向性を決めていく。受講生の主体性が何よりも重視されるのである。また、そのような原則に立つため、教員と受講生（相模女子大学の学生および勤労青年※）は、みなフラットな関係であり、これを示すためお互いをニックネームで呼び合うようにしていた。そして、教員と受講生は一つのチームであり、チームを構成する「メンバー」として伝えている。

このような従来の教育形態とは異なるインクルーシブ・リサーチの運営方法に、活動前半はかなりの戸惑いがあったように思う。受動的な学びに慣れていた受講生にとっては、求められていることがわからずに悩んだり、メンバーに対して安心感が得られない状況では主体的に発言することができない状況があった。しかし、活動を継続していく中で、視察や発表など協力し合う取り組みを通してお互いを知り、グループとしての信頼感が醸成されていった。特に、視察は活動の転機になったと言えよう。様々な学びの場を訪問し、取り組みを見聞きすることで多くの刺激を受けたと同時に、自分たちの活動を客観的にとらえ直し、活動の意義を再確認する機会となった。動機づけができたことによって、権利意識や自分たちの主張を発信していきたいという思いが芽生え始めたように思う。また、視察中の移動や食事などいわゆる勉強以外の時間を一緒に過ごしたことも、受講生にとっては大きな意味のある出来事であり、その時間を通して一気に距離が近づいたと彼らは語っている。活動後半では、「インクルーシブ・リサーチは自分たちが決めて自分たちで行う活動」という意識のもとに、それぞれが積極的、自発的に行動し役割を果たす姿が見られるようになっていく。

なお、当初の活動計画から変更が必要になった箇所もあった。新型コロナ・ウィルスの感染拡大の影響によって、当初4回書予定していた視察は3か所となり、そのうち1か所は教員以外のメンバーはオンラインでの視察となった。ミーティングは計画では4回の予定だったが、受講生の想いを受けて7回に増えた。ミーティング回数の増加は、信頼関係の構築が活動の実施において非常に重要であったことを裏付けている。

## 2. 活動の成果

本年度の活動を通して得られた成果は大きく3つある。はじめに、本年度の活動のテーマである「発達障害や知的障害の若者が大学に求めるニーズの探求」に対して、一定の答えが導き出されたことである。それはリサーチメンバーの表現を借りると「ともに学ぶ大学」ということである。ともに学ぶ大学とは、障害者のために障害者用のクラスを学内に設ける（インテグレーション）のではなく、学生と同じクラスで交流し合いながら障害者とともに学ぶこと（インクルージョン）を前提としている。その上で、主体的な参加や誰でも参加できることを保障していること、様々

な経験や体験ができる場であること、自分を自由に表現でき、多様性を尊重できる環境であること、コミュニケーションが活発で相談できたり助け合えたりすること、求める学びが得られることなどが重要な要素としてあげられた。

次に、この活動の目的であったセルフ・アドボカシーの促進という観点から考えると、勤労青年だけでなく、学生にも大きな成果が見られた。活動を通して、勤労青年には権利意識の芽生え、学生には障害概念の問い直し等の変化があり、現在は、それぞれが共生社会の実現を自分事として考え、自らが果たすべき役割について考えている。その姿は、勤労青年がセルフ・アドボケイトとして成長していく姿であり、学生がシチズン・アドボケイトとして、また支援者としてともに歩んでいく姿のように思える。勤労青年の「勤労青年と学生が関わって活動するインクルーシブ・リサーチの活動を他の大学でも行うことができれば少しでもいじめや差別が少なくなり、障害に対する理解が深まると思う」という言葉は真にその姿を表したものである。

最後に、インクルーシブな生涯学習に大学が取り組む意義について、勤労青年と学生を当事者として位置づけたこの活動だからこそ、見いだせたことがあるように思う。インクルーシブ教育は障害当事者にとって権利であるという文脈で語られがちであるが、分離教育の下、ともに学ぶ機会をはく奪されて育った学生にとっても、インクルーシブ教育は権利である。活動を通して、学生も勤労青年も異なる経験をしてきた人と出会う喜びを感じ、お互いをよりよく理解したいと常に交流を求めていた。その交流によって得た理解の深まりを彼らは一つの学びと捉え、そこに価値を感じていたのである。大学での学びとは、決して「学問的な知識や技能の獲得」だけを指すのではない。多様な他者との交流によって得られる学びを保障するためにも大学がインクルーシブな生涯学習に取り組む意義があるのではないだろうか。また、現代の対人援助職に求められる専門性の1つに、当事者との協働がある。社会福祉士養成課程を擁する大学としても、学生時代に協働の経験を得られる環境は強みと言えるだろう。

### 3. 今後の課題

1年目は活動を軌道に乗せることに注力したため、次年度は活動が継続できるよう持続可能な形で活動の基礎を固めていくことを課題としたい。また、「勤労青年」という呼び方は便宜的に使っているが、グループが成熟してきた今だからこそ本音を語るができるため、今後の活動の中で検討していきたい。

更なる課題としては、この活動の要ともなる障害当事者の参加が保障されるよう、その専門性を社会に働きかけることや、多様な障害・多様性への対応、どの大学でも実施できるようこの活動をプログラム化し、発信していくことがあげられるだろう。

# 総合考察

# 2021年度の総括と今後の課題（プログラム全体）

相模女子大学副学長 奥村 裕司（多様な生涯学習のあり方検討WG代表）

## 1. 本プログラムの社会的意義

今回報告するインクルーシブ・プログラム開発事業は、相模原市と相模女子大学の連携・協働による事業である。事業化の開始は2021年度からであるが、2019年度より本プログラムのコーディネーターであり連携協議会会長でもある川口信雄氏（元横浜わかば学園教諭，現在(株)はまりハ顧問）と本学教員の日戸由刈氏により、本学子育て支援センター事業として取り組みの一部を開始している。その経緯について、川口氏は著書の中で次のように述べている。

筆者が最後に勤務した横浜わかば学園では毎年ほとんどの生徒が企業就労する。彼らは社会人としての期待と誇りを胸に卒業していくのだが、「もう少し学びたかった」や「進学という選択肢も欲しい」というような声も聞く。

障害者権利条約の24条には「障害者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受することができる」とあり、欧米諸国では知的障害があっても本人の学ぶ意志を認め一人の大学生として受け入れているケースが報告されている（長谷川, 2019）。

しかし、わが国では後期中等教育を終了後に知的障害者が学ぶ機会は極端に少なくなる。ましてや彼らが一般の大学生と学ぶ機会はほとんどない。共生社会の実現には、同世代の学生と共に学ぶことを通して相互理解を深めていくことが求められる。そこで、令和元年（2019年）に文部科学省の委託事業として相模女子大学においてインクルーシブ・ゼミを企画し、ゆたかカレッジの知的障害や発達障害のある青年が同年代の大学生と共に学ぶ場を創った（川口, 2020）。

令和2年度（2020年度）はその発展型として、特別支援学校高等部を卒業し企業に手帳就労している19歳から23歳の若者（以後、勤労青年）4人と相模女子大学人間心理学科学生（以後、大学生）3・4年生4人が参加し、サブリーダーとして4年生1人と相模原市発達障害支援センター職員1人を加えた10人が共に学んだ。テーマは「自己理解」で、新型コロナウイルス感染防止対策のためすべてオンラインで行い、相模女子大学の日戸由刈教授と私が協働で進めた。[特別支援教育研究2021年9月号「大学生と知的障害の青年によるインクルーシブ・ゼミ」より引用]

川口氏が指摘する通り、わが国では知的障害者がいわゆる高校（特別支援学校の高等部や高等特別支援学校など）を卒業した後の進路は、文部科学省の最新データによると障害者雇用等による就職が約30%、障害福祉サービスが約60%、大学など高等教育機関への進学は僅か2%であった（※日本LD学会発表スライドを参照）。ほとんどの若者が高校卒業後、大学や専門学校などで自由に学び、自由に交流するモラトリアム期間を経て就職する一方、知的障害の若者の多くは自由な学びや交流の経験を持つことなく、一足飛びに社会への適応を強いられている。

この問題に対して、近年、教育委員会やNPOなどが「青年学級」や「余暇支援」などの方法で自由な学びの場を保障しようとする動きがみられる。しかし、いずれも障害者だけを対象としており、一般の同世代との自由な交流の機会は限られている。相模原市での取り組みは、大学という場を活用することで、自由な学びのみならず、大学生という一般の同世代との自由な交流も保障する仕組みを目指す点で国内において先進性が高く、欧米のモデルにより近いと考えられる。

## 2. 活動の成果

さらに、本プログラムでは 2021 年度からの事業化において、2019 年度からの試行を拡大させるのではなく、「インクルーシブ・リサーチ」というまったく新しい取り組みを基盤に据えた。インクルーシブ・リサーチとは、これまで調査対象とされてきた障害者が、自身の関心を探求するための調査方法や社会への発信の方法を学ぶことによりセルフ・アドボカシーが可能になることをねらいとした活動である。発達障害や知的障害の若者と大学生の両方が、「当事者」として自らの生活を豊かにするための事柄をテーマとして取り上げ、大学教員等と協働して調査研究を行い、その結果を社会に向けて発信する。本プログラムでは 8 名の若者（知的障害の青年 4 名、大学生 4 名）がメンバーとなり、国内で先駆的な取り組みを行っている団体を視察し、ミーティングを重ね、成果報告会での発表や「当事者向けの報告書」作成などを行う予定である。この活動の成果について、活動を担当する狩野晴子氏（本学人間心理学科）は次のように述べている。

インクルーシブな生涯学習に大学が取り組む意義について、勤労青年と学生を当事者として位置づけたこの活動だからこそ、見いだせたことがあるように思う。インクルーシブ教育は障害当事者にとって権利であるという文脈で語られがちであるが、分離教育の下、ともに学ぶ機会をなく奪われて育った学生にとっても、インクルーシブ教育は権利である。活動を通して、学生も勤労青年も異なる経験をしてきた人と出会う喜びを感じ、お互いをよりよく理解したいと常に交流を求めている。その交流によって得た理解の深まりを彼らは一つの学びと捉え、そこに価値を感じていたのである。大学での学びとは、決して「学問的な知識や技能の獲得」だけを指すのではない。多様な他者との交流によって得られる学びを保障するためにも大学がインクルーシブな生涯学習に取り組む意義があるのではないだろうか。（本事業報告「2021 年度の総括と今後の課題：インクルーシブ・リサーチ」より引用）

令和 3 年度（2021 年度）はプログラム開発事業費の多くを、このリサーチの活動にあてた。今後、その成果をさまざまな形で発信することにより、相模原市の取り組みが目指す目標が明確なイメージとして社会に伝わることを期待している。そして、その目標のもと、誰もが参加できる持続可能なプログラムを確立し、地域で生活する多くの若者に提供していきたい。

さらに、この活動は知的障害や発達障害の若者にとっての効果のみならず、参加した大学生にとっても、主体性やアドボカシーの感覚を高め、多様性を認め合う心を育てる契機となった。この効果はクローズな固定メンバーでの活動だけでなく、通常の授業においても期待することができる。日戸氏は取り組みの一環として、自身が担当する大学の授業の 1 回分に、メンター役の知的障害の若者にゲスト出演してもらい、トークや演奏などを披露してもらった（インクルーシブ・ゼミの報告内容を参照）。40 名以上の聴講学生からは、障害者に対する自身の誤解や偏見への気づき、新たな価値の発見、自身が勇気や励ましを得たという感覚などがリアクションペーパー上で熱く語られている。

## 3. 今後の課題

今後の課題は、相模原市および相模女子大学の双方にあるが、まずは、大学側の課題について焦点を当ててみる。令和 3 年度の取り組みは、大学における「多様性と包摂（Diversity & Inclusion）」を基底とした生涯学習の推進にあたって、コア・バリュー（核となる考え方）を提唱したに過ぎない。今後は、地域にある潜在的なニーズを深く調査し、知的障害や発達障害の若者に適した生涯学習の内容および体制をつくるのが課題と考えられる。

具体的には、プログラム運営体制の整備が挙げられる。大学としては、「生涯学習」として求められるプログラム（カリキュラム）を充実させることを第一義とする一方で、運営に係る人員や資金の確保は、プログラムを持続可能なものにするために欠くことができない要件と考えている。したがって、プログラムを更に発展させるためには、「行政のみ」、「大学のみ」の単体で取り組むのではなく、行政と大学、さらには地域の教育・福祉機関等が有機的に連携し、その連携をいかに継続することができるかが最重要である。

今年度、本事業運営にあたって組織した連携協議会においては、大学・行政の教職員のみならず、相模原市内の教育・福祉の関係者、有識者等の委員より、プログラム開発に資する多数の有用な意見が出された。型通りのプログラムを運営するのではなく、「学びたい」を第一に考えた自由度の高いプログラムの運営こそが必要であろう。この点において、講座を担当することができる専門知識をもった教員を有する大学の責任は重い。地域の教育・福祉関連機関といった資源を活かしながら、本事業を展開することができれば、自ずと本事業が抱える課題に対応した持続可能な運営体制がみえてくるものと考えられる。

最後に、今後の本事業の展開に当たって、相模原市および相模女子大学、両機関の一層の協働に務めていきたい。

---